

大井実の
BOOKな話

福岡市内で書店『ブックスキューブリック』をいとなむ大井実さんの、本のある日常をつれづれに。
撮影/川上信也

僕が大好きな福岡の街と、
深まる秋をテーマに選んだ、ふたつの作品。



『もしも、私があなた
だったら』白石一文/光
文社文庫/514円(税別)



福岡限定の話で恐縮ですが、毎年10月11月に『ブックオカ』というイベントをやっています。今年で早くも7回目、福岡を本の街にしよう！ 出版業界や書店を活性化しよう！ という目的ではじめた、いわば本のお祭り。私も発起人のひとり、地元での出版社や書店主たちが集まって毎年さまざまな催しを企画しています。本好きで、福岡の街が大好きな私にとって、『ブックオカ』には強い思い入れがあります。今年には作家の角田光代さんや9月号で紹介した詩人の谷都雄さんのトークショーも開催。ぜひ遊びに来てください。

さて、今月はイベントにちなんだ福岡という地域つながりと、人恋しくなる秋におすすめの、白石一文さんの『もしも、私があなただったら』という小説をご紹介します。白石さんは『ブックオカ』の1回目のゲストとしてお呼びしたこともあり、非常に思い出深い方。そしてこの小説は、出版社をお辞

『Nina Simone』
/ニーナ・シモン
※著作権の関係で今回はパッケージ写真は掲載いたしません。ご了承ください。

めになつて専業作家となった白石さんが、故郷の福岡に戻り、そこを舞台に発表した作品です。さらに、私は僭越ながらこの作品の文庫本で、巻末の解説を書かせていただきました。もうひとつ言えば、白石さんは同じ高校の先輩でもあります。誰かに寄り添いたいと感じる深まりゆく秋にぴったりの、世間の常識と欲望の葛藤を描いた恋愛小説であり、企業という組織の影を描いた社会派の小説でもあり、なにより福岡という町の魅力が随所に登場するところも面白い。福岡びいきの私がおすすめる代表的な作品です。

音楽は、同じく秋という季節をテーマにひとりでしみり聴きたいジャズを選びました。ニーナ・シモンというボーカリストのデビューアルバムです。ねっとりとした野太いハスキーボイスが哀愁を感じさせ、同時に抜群に上手いピアノの音色にも酔いしれる。深夜にホットウイスキーでも飲みながら、ぜひ。